

子どもソーシャルワークセンターのあゆみ

2012年度に京都市山科区に独立型社会福祉士事務所「幸重社会福祉士事務所」としてスタートをして、2016年度に大津市に移転。2018年にNPO法人子どもソーシャルワークセンターとして法人化しました。

活動年表

2018 1月 特定非営利活動法人
子どもソーシャルワークセンター設立総会（3月9日法人設立）

2月 『まちの子どもソーシャルワーク』出版

4月 「ほっとるーむ」が大津市子ども家庭相談室と共同実施開始

5月 若者たちの居場所「まちなかほっとるーむ／まちなか合宿」開始（2021年度まで）

5月 高校内居場所カフェ「大津清陵高校ほっとルーム」開始 **P.12**

2020 1月 内閣府主催「子供の貧困対策に関する有識者会議」に招聘

3月 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言・学校休校時の緊急受け入れ事業（2020.5まで）

4月 夜の子どもたちを支えるアウトリーチ事業：こどもの未来応援基金（2021.3まで）

4月 生きづらさを抱える若者たちによるアウトリーチ事業：休眠預金活用助成金（2022.2まで）

2021 4月 立命館山中中学・高校へのソーシャルワーカー派遣開始 **P.16**

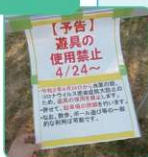
2022 4月 「トワイライトステイ」「ほっとるーむ」が
大津市の子どもの居場所事業として統合

3月 生きづらさを抱える若者たちを支える「ユースホーム事業」：**P.09**
休眠預金活用助成金（2023.2まで）

7月 「ヤングケアラー支援事業」開始：
滋賀県ヤングケアラー支援体制強化事業 **P.11**



82日開催、のべ337人の
こどもたちを朝から晩まで
受け入れをしました。



ヤングケアラーと共に
モデル事業づくり



NPO法人化以前の活動

2012 4月 独立型社会福祉士事務所「幸重社会福祉士事務所」設立（京都市山科区四宮）

2014 3月 龍谷大学町家キャンパス「龍龍」（大津市）で、夜の居場所「トワイライトステイ」開始 **P.07**

5月 内閣府主催「子どもの貧困対策に関する検討会」に招聘

12月 社会貢献型の就労支援プログラム「ジョブキャッチ」開始（2021年度まで）

2015 4月 滋賀の縁創造実践センター「淡海子ども食堂」「フリースペース」ワーカー派遣（2017年度まで）

2016 4月 事務所移転（滋賀県大津市観音寺）通称を「子どもソーシャルワークセンター」に

8月 センターで日中の子どもの居場所「ほっとるーむ」開始 **P.08**

11月 センターで子ども食堂「eatalk」開始 **P.09**

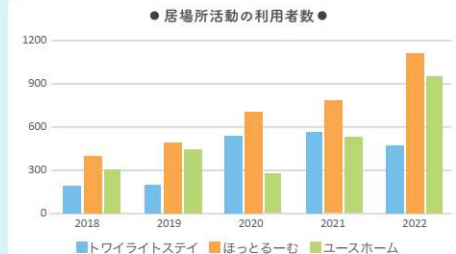
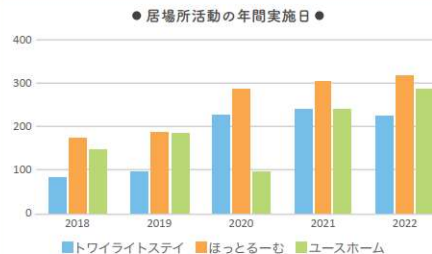


大家さんの好意で
建物をリフォーム



活動日・利用者のべ人数グラフ

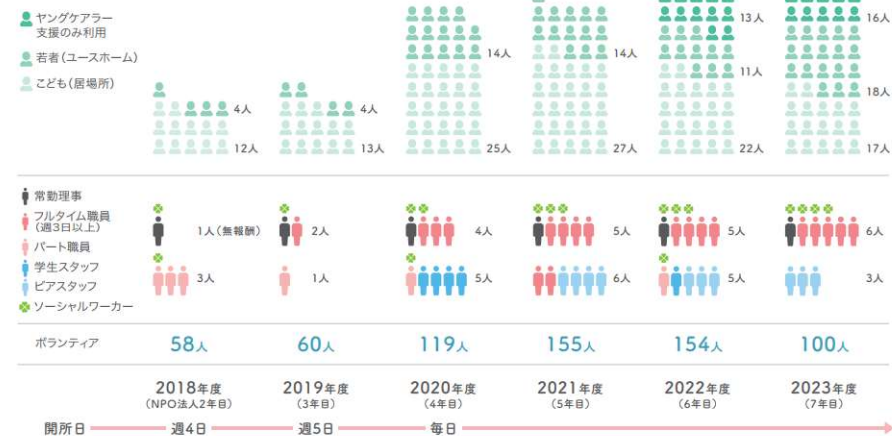
コロナ禍以降は、ほぼ毎日センターを開けて子ども若者を受け入れています。また若者向けの活動日や利用者が年々増え続けています。若者向けの就労支援メニューが2020年度からはジョブキャッチと呼ばれる軽作業を行う中間就労プログラムと入れ替わって、ピアスタッフとして雇用されたことから、若者向けの活動日やのべ利用者数が一度急減しています。



利用登録者数と職員数の変化

子どもソーシャルワークセンターでは、センターを利用する子ども若者一人ひとりと丁寧に関わっていききたいという思いから、利用する子ども若者の数を調整しながら受け入れを行っています。コロナ禍までは職員数も少なかったことから20名までの受け入れでしたが、職員数の増加とともに受け入れの数を増やしています。また専門職であるソーシャルワーカーの比率が年々増えてきています。

● センターの支援を受ける子ども若者と職員の増加（利用登録者実数）



【 組織の基盤整備事業について 】

2020年度のコロナ禍以降、子ども若者の受け入れと組織の急激な拡大によって、組織基盤整備の必要性が強まりました。そこで2022年から2023年末まで「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」の助成を受けて、外部コンサルテーションの力を借りながら組織基盤整備をすすめました。「子どもソーシャルワークセンター（2018～2022）団体紹介ブック」もその組織基盤整備の一環として作成されました。